

資料1-3

No.	発言者	発言内容	懇談会における宮城県の回答・コメント
1	伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に従事していると水不足に悩まされる。川には一定の水量を望む。 ・(南沢川の鮭の遡上を見て)自然環境を守っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川の水質、環境に配慮した河川整備を進める。
2	西村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・治水、利水とのバランスに配慮しつつ、震災後であっても残せる自然環境の保全に配慮していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、震災後の生態系調査を実施、とりまとめ中である。
3	西條委員	<ul style="list-style-type: none"> ・南沢川の確率規模は1/20というが、毎年のように発生している実感があり、そもそも1/20の設定が適切かどうか疑問である。 ・昔の南沢川は普段の水量もあったが、今では水無川となっている。山地の植生も雑木が減少し、その保水能力が低下しているのではないか。植生のあり方も含めて考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確率規模の設定は、県内の統一基準に沿って決定している。浸水についてはソフト対策も含めて考えている。 ・山地における森林の保全のあり方について調べてみたいと思う。
4	高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理について、多様なパートナーシップによる河川管理とあるが、具体的にどのように考えているか。河川愛護団体の活用を考えてはどうか。 ・自然環境だけでなく、地域の人間環境についても配慮していただきたい（座長より補足：地域作りも大事である）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛護団体からの申し出があれば連携していく。しかし、現時点で必要な団体数にまで至っていない。 ・地域づくりについても配慮する予定である。
5	大山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・多自然工法を用いて、生態系を回復する場の整備が必要。魚の移動にも配慮していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、生態系に配慮した整備を進めていく。
6	平吹副座長	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な自然環境を有する流域管理、森林の管理、里山景観の保全等にも配慮していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観への配慮について、色々な関係者の意見を聴きながら進めていく。環境アドバイザー制度の活用も考えている。
7	真野座長	<ul style="list-style-type: none"> ・広域地盤沈下への対応はどのように考えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川整備基本方針と整合を図りながら、沈下分のスライドダウンを考えている。次回の懇談会で提示予定。